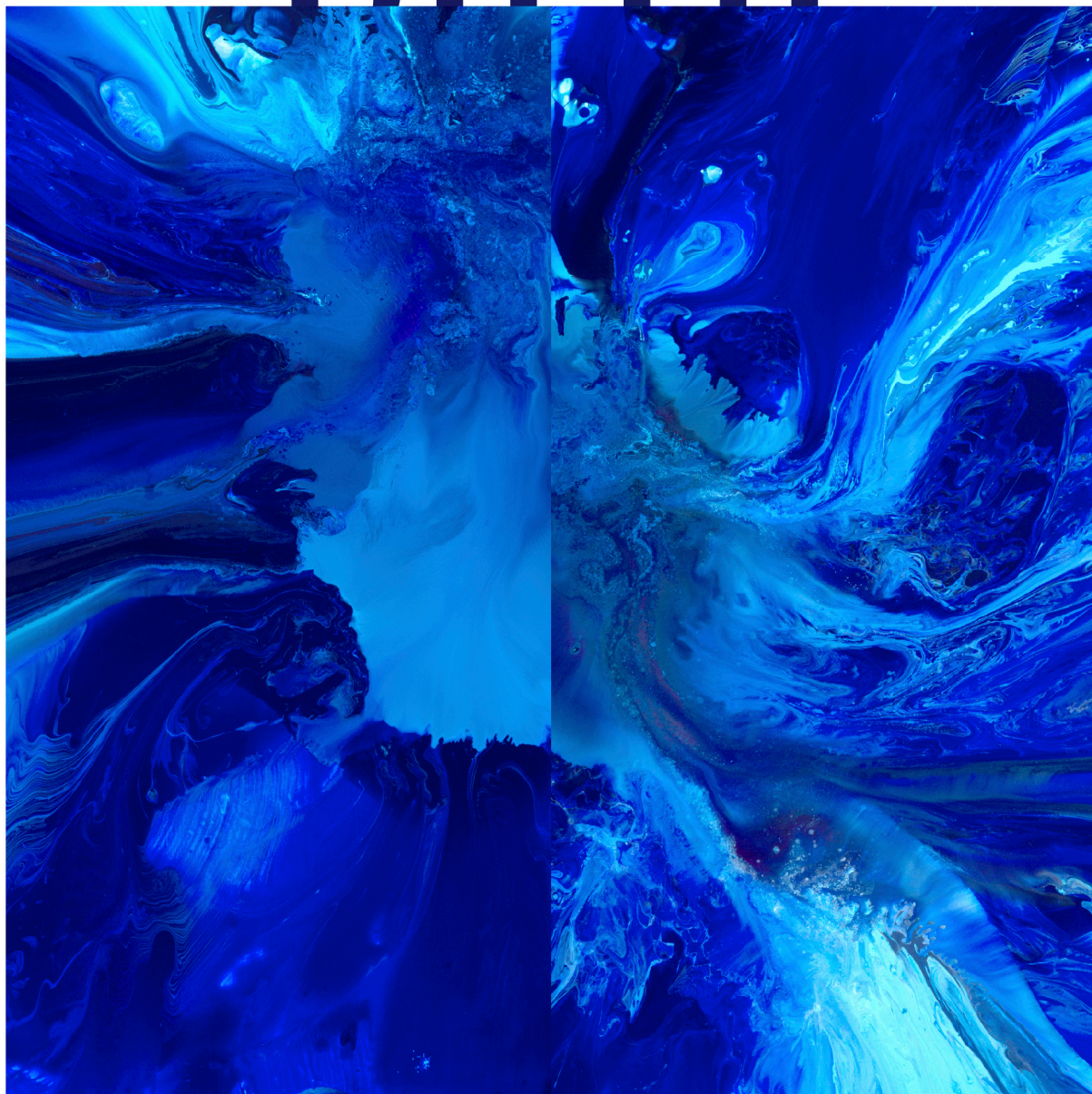


birth

Kanako Sasaki



Solo Exhibition

birth

佐々木香菜子 個展

Kanako Sasaki Solo Exhibition “birth”

2022年6月17日(金)～6月21日(火) ※会期中無休

せんだいメディアテーク 6F ギャラリー a

観覧料無料 | 10:00 - 19:00 (最終日 17:00 / 入場は閉場の30分前まで)

主催 | ギャラリー・エデル(株式会社エデル)

お問い合わせ | 〒530-0047 大阪市北区西天満4-9-2 西天満ビル201 TEL 06-6131-2155 info@edelcoltd.com

後援 | 仙台市 公益財団法人仙台市市民文化事業団 朝日新聞社仙台総局 仙台リビング新聞社 読売新聞東北総局 河北新報社

S-Style

khb 東日本放送

仙台放送

tbc 東北放送

ミヤギテレビ

Radio fm

(順不同)

Kanako Sasaki Solo Exhibition birth

もう一度、ここから生まれる。

アーティストとして世界的な活躍が期待される佐々木香葉子の個展が初めて、生まれ育った仙台で開催されます。

タイトルである“birth”とは、直訳の通り「生まれる」ということ。約700平方メートルの広大な空間の始まりは、「青い子宮」と表現する世界。佐々木は母親の体内にいた時から感じていた“青”という色が、今現在でも自分の意識の中に深くあり、その執着を作品として表現してきました。

ここでは青の細胞が分裂・増殖を繰り返し、進化・生まれ変わることを表現した「REBORN」シリーズや、抽象表現で描かれる「Portrait」シリーズでの自画像など、原点ともいえる

「青」をテーマにした作品と対峙できる空間になっています。

その先には、産道を抜け新たに生まれた世界。「REBORN」シリーズと並ぶ代表作である「mosaic」シリーズ、そして今年5月に世界的アートフェアである『ART BUSAN』にて初公開されたばかりの新作「曖昧」シリーズの、S100号3枚からなる初めての大型作品を展示します。

「仙台という特別な場所で作品展をすることで、また新たに生まれる自分を楽しみにしている」。そう語る佐々木の過去、現在、そして未来を内包する、今までにない規模の作品展にどうぞご期待ください。



左から、「REBORN2」Acrylic on canvas 1620×1620mm (2020) / 「REBORN17」Acrylic on canvas 1455×1455mm (2021) / 「nadim」Acrylic on canvas 410×242mm (2021) / 「mosaic20」Acrylic on canvas 530×530mm (2022) / 「mosaic27」Acrylic on canvas 530×530mm (2022) ©Kanako Sasaki

Profile

佐々木香葉子 Kanako Sasaki

1983年、宮城県仙台市生まれ。数多くの広告ビジュアルや商品パッケージ、企業とのコラボレーションにてアートワークを手がける。近年は作家としての活動に軸足を移し、海外のアートフェアにも精力的に参加。昨年10月にソウルで開催された『KIAF*』では、VIPプレジューで作品を完売。また同年11月にはマイアミ・アート・ウィークのハイライトの一つでもある『ART MIAMI』へ出展し、国内のみならず海外のアートコレクターからの注目を集める。作品発表の場として、ライブペイントにも力を入れている。

※Korea International Art Fair

Access



せんだいメディアテーク (会場: 6F ギャラリー a)

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1
TEL 022-713-3171 | <https://www.smt.jp/>

交通アクセス

地下鉄
南北線勾当台公園駅下車、「公園2」出口から徒歩6分(約450m)。
東西線大町西公園駅下車、「東1」出口または「西1」出口から徒歩13分。
東西線青葉通一番町駅下車、「北1」出口から徒歩15分。
バス
仙台市営バス 仙台駅前-60番
(仙台TRビル前、地下鉄仙台駅「中央2」出口前)のりばから
「定禅寺通市役所前経由交通局大学病院」行き
(系統番号がJまたはXで始まるバス)で約10分、メディアテーク前下車。
徒歩 仙台駅より約20分(約1.8km)。
タクシー 仙台駅西口タクシー乗り場から約7分。
車 東北自動車道仙台宮城ICから約10分(約5.3km)。

俳優

千葉雄大 Yudai Chiba

青というと、冷静沈着な印象を受けるが、「青春」「青写真」「青い炎」など煌めきや将来の展望、静かなる熱量など切り取り方によっては情熱的な印象も受けて取ることができる。かなこちゃんの色んな青がみなさまにどう映るのか、ファンとして友人としての楽しみです。30歳の記念に僕をイメージして絵を描いてもらったけど、今の僕は彼女の目には何色に映るのか。同郷としてお互いに色んな色を携えて錦を飾りたいね。



Message

Special Site



ギャラリー・エデルの
ホームページ内で
特設サイトを公開中